

たが、大正三年今の地に移った。

ショウコウジ 性光寺 河北郡川尻に在つて、眞宗東派に属する。

ショウコウジ 松岡寺 能美郡波佐谷に在つた一向宗寺院で、波佐谷坊ともいひ、所謂三山の大方主の一であつた。蓮如の三子蓮綱兼祐之を草創し、子蓮慶兼玄嗣ぎ、その子實慶兼相を第三代とするが、また寺務を享けなかつたであらう。白山宮莊嚴講中記録に、享祿四年超勝寺等が連谷に放火したとあるのは、寺記に三代實慶の時兵火に逢うたとするものに當り、次いで四代顯慶の時珠洲郡松波に移つた。波佐谷に在つた坊を松岡寺といふは、初め附近の松岡村に起つた爲であると、能美郡名蹟誌などに記される。

ショウコウジ 松岡寺 能美郡相浦に在つて、眞宗東派に属する。波佐谷松岡寺の後であるといふが、明らかでない。

ショウコウジ 松岡寺 珠洲郡松波に在つて、眞宗西派に属し、藩政の時觸頭であつた。寺記に、能美郡波佐谷の松岡寺は、享祿年中第三代實慶兼相の時に退轉したが、四代顯慶兼利は松波に移り、高福寺と稱する古寺に住み、五代慶立を經、六代慶榮の時再び本山に請うて松岡寺の號を許されたとある。能登名跡誌に、『松岡寺というて西方一向の院家あり。蓮如の三男蓮綱の開基にて、昔は加州波佐谷といふにありし由。今も地方七石五斗寺領あり。此寺の太鼓の筒は豆がらの木にて、一撥二聲にひやく由。』と記する。寺藏に木造彩色聖德太子孝養像一軀体高一米五四厘のものがあり、奈良興福寺勸修坊に在つたものと傳へ、鎌倉時代の作と認められる。

ショウコウジ 聖興寺 石川郡松任中町に在つて、眞宗東派に属し、中野山と號する。寺記に、明應三年明源の同郡德光村中野に創立したに起り、德光寺と稱したが、文祿中三代正眞の時聖興寺と改め、慶長六年宮保村に轉じ、慶安元年五代慶意今の地に移したとするが、諸家分脈系圖には、専光寺十代康照(明曆三年二月寂)の子慶意(寛永十六年得度)を以て開祖としてゐる。本寺境内に千代尼の句碑がある。

ショウコウジ 聖興寺 石川郡河内庄八幡の東なる八幡宮の後に、しやうこう寺跡といふがある。洞上聯燈錄に通幻寂靈が大原山に聖興寺を開き、太山如元がその席を繼いだとあるものはであらう。大原山は八幡の隣村に小原村(又は石切小原村)があるから、寺地をその領内と見たのである。従うて寶曆十四年調書能美郡波佐谷に、『波佐谷村禪宗通玄(幻)和尚開基聖興寺与申屋敷跡之由申傳候。』とするは誤傳であらうと思はれる。

ショウコウジ 聖光寺 鳳至郡輪島の輪島崎町に在つて、文應元年法燈圓明國師開闢の臨濟道場であつたが、元和中象山徐芸の再興するに及んで曹洞宗となつた。能登名跡誌に、『聖光寺とて禪宗あり。此寺始は七堂伽藍の大寺にて、天台宗なりしといへり。今境内廣し。寶物多し。佛舍利あり。是は和州龍田法薩寺と、此寺にばかり傳る由。其外釋迦金魚衣のきれあり。』とある。蓋し天台宗であつたとするものは誤であらう。

ショウコウジ 照光寺 鳳至郡澁田にあつて、眞宗東派に属する。能登名跡誌に、『澁田村に照光寺とて一向宗あり。是は南志見の城主井口氏の子孫とて井口山といふ。』とある。ジヨウコウジ 常光寺 ↓サンジヤノミヤ 三社、宮。ジヨウコウジ 常光寺 能美郡鹽原に在つた。能美郡名蹟誌に、鹽原村常光寺は眞宗であつたが、元祿の比か越前坂谷郷伏石に移つたとある。ジヨウコウジ 常光寺 鹿島郡田岸に在つて、眞宗東派に属する。ジヨウコウジ 淨光寺 金澤中牧町に在つて、眞宗東派に属する。初め卯辰茶屋町に創立し、延享三年今の地に移轉したとある。ジヨウコウジ 淨光寺 河北郡二俣に在つて、眞宗東派に属する。もと道場であつたが、明治二年淨法坊と公稱し、十二年六月更に靜光寺に改めた。ジヨウコウジ 乘光寺 河北郡に在つた。親鸞の弟子眞西、同郡相窪に之を創めたといひ、五代にして南横根に移り、十一代にして越中石動に轉じた。實悟記に、『加賀國河北郡横根村と云所に三ヶ日蓮如上人を留申けるに、横福の乘光寺と云坊に光臨あり。』といふものは是であらう。ジヨウコウジ 乘光寺 珠洲郡飯田に在つて、眞宗東派に属する。ジヨウコウジ 鉦鼓ヶ淵 金澤郊外卯辰山の中茶臼山のほとりに、貝やき溪とて貝の灰を製する所があり、その上に周圍二町餘、淵水を湛へ、雜艸の繁茂した池があつた。初夜過から丑滿頃まで、鉦鼓を叩いて池の汀をめぐる音があると、それを鉦鼓ヶ淵と稱した。ジヨウコモノナリ 定小物成 ↓コモノナリ 小物成。

ジヨウゴンジ 淨嚴寺 羽咋郡火打谷に在つて、眞宗東派に属する。ショウコンシヤ 招魂社 卯辰山卯辰神社の下に在つた。草創は明治元年越後奥羽の亂に加賀藩兵戰歿の者百三名の靈魂を祀るため、同年十一月二日卯辰山庚申塚の地に假殿を設け、藩侯前田慶寧より祭典を命ぜられたに起り、三年十二月社地を爲峰にトして建立し、又石碑を建て、藩知事から米千俵を毎歲寄附せられ、春秋二回祭典を執行したが、廢藩の後その賦資を停止したるを以て、八年四月以降招魂社費に官金を下賜せられることになつた。後西南役の戦死者數名を合祀し、二十四年九月十七日舊藩士不破富太郎以下三十六名を亦合祀し、大正六年日清・日露兩役の戦死者を加へ、爾後第九師團下の各事變犠牲者を合祀した。然るにその境域狭小にして位置不便であつたから、昭和十年新殿を出羽町に建て、之に遷し、十四年四月一日更に石川護國神社と改稱した。

ジヨウサイコウジ 常在光寺 陸涼軒日録に、長享二年右近衛大將源義熙の書を常在光寺に賜うて加賀國中與保を永業田としたとある。日用三昧記によると、天文八年正月二十四日常在光寺木守賀州より上洛など見ゆるから、常在光寺は加賀に在つたのである。ジヨウサイジ 淨西寺 金澤木、新保に在つて、眞宗東派に属する。ショウサンジ 松山寺 金澤八坂に在つて、圓通山と號し、曹洞宗に属する。慶長四年横山山城守長知請うて造立し、融山泉祝を招いて寺主とした。塔頭榮壽院は、同五年長知が其の妻の爲に建立したものであるが、これは

主井口氏の子孫とて井口山といふ。』とある。ジヨウコウジ 常光寺 ↓サンジヤノミヤ 三社、宮。ジヨウコウジ 常光寺 能美郡鹽原に在つた。能美郡名蹟誌に、鹽原村常光寺は眞宗であつたが、元祿の比か越前坂谷郷伏石に移つたとある。ジヨウコウジ 常光寺 鹿島郡田岸に在つて、眞宗東派に属する。ジヨウコウジ 淨光寺 金澤中牧町に在つて、眞宗東派に属する。初め卯辰茶屋町に創立し、延享三年今の地に移轉したとある。ジヨウコウジ 淨光寺 河北郡二俣に在つて、眞宗東派に属する。もと道場であつたが、明治二年淨法坊と公稱し、十二年六月更に靜光寺に改めた。ジヨウコウジ 乘光寺 河北郡に在つた。親鸞の弟子眞西、同郡相窪に之を創めたといひ、五代にして南横根に移り、十一代にして越中石動に轉じた。實悟記に、『加賀國河北郡横根村と云所に三ヶ日蓮如上人を留申けるに、横福の乘光寺と云坊に光臨あり。』といふものは是であらう。ジヨウコウジ 乘光寺 珠洲郡飯田に在つて、眞宗東派に属する。ジヨウコウジ 鉦鼓ヶ淵 金澤郊外卯辰山の中茶臼山のほとりに、貝やき溪とて貝の灰を製する所があり、その上に周圍二町餘、淵水を湛へ、雜艸の繁茂した池があつた。初夜過から丑滿頃まで、鉦鼓を叩いて池の汀をめぐる音があると、それを鉦鼓ヶ淵と稱した。ジヨウコモノナリ 定小物成 ↓コモノナリ 小物成。